

## 9月 定例教育委員会会議録

- |   |      |   |
|---|------|---|
| 1 | 日 時  | 令和2年9月24日(木) 午後5時30分から午後6時42分まで   |
| 2 | 会 場  | 磐田市役所 西庁舎3階 特別会議室   |
| 3 | 出席者  | 村松啓至教育長<br>杉本憲司委員、青島美子委員、秋元富敏委員、鈴木好美委員  |
| 4 | 出席職員 | 市川 暁教育部長、神谷愛三郎教育総務課長、川倉彰裕学府一体校推進室長、<br>木野吉文学校給食課長、吉村康宏学校教育課長、鈴木都実世中央図書館長、<br>伊東直久文化財課長、磯部公明地域づくり応援課長、川島光司幼稚園保育園課長<br>傍 聴 人 0人 |

(進行委員：杉本憲司委員)

### 1 開会

### 2 教育長あいさつ・教育長報告

○皆さんこんばんは。本日は、定例教育委員会にお集まりいただき、ありがとうございます。9月議会では多くの質問がありましたが、市としての考えを答弁させていただきました。

彼岸を過ぎてから大分涼しくなり、秋らしくなってきましたが、彼岸花はまだ数輪を見ることが出来る程度です。これも地球温暖化の影響の一つなのではないかと考えさせられ、自然環境が大きく変化しているのを痛感しています。昆虫や野鳥の分布、すずめなども昔と比べると少なくなっているような気がします。日本の秋の空として象徴的な雲は巻層雲ですが、最近の空を見てみると、水蒸気を多く含んだ積乱雲が多くなっています。どんよりとした重い雲が垂れ下がっているような感じです。東京などの都市部や、浜松の中心部では夜景が雲に映ることがあります。最近ではカーナビの秋の雲の描かれ方が私たちの馴染みのあるものとは違う画像になっています。これは最近の若い人達がカーナビを作成していて、彼らはそういう空を見ているということです。秋の清々しい風を感じ、青空にきれいな幕を広げるような巻層雲を見たいと思うのは私だけでしょうか。

樹木も大きく変化してきています。駅前の善導寺の大樟ですが、5年前と比べると芹澤先生や文化財課のおかげで、今では緑をしっかりとたくわえるようになってきました。明治神宮の森の木々は大正期に全国から寄贈され作られた人工林だと聞いています。約100年経過した木々は立派に成長し、都会のオアシスになっています。この森はドイツの林学を学んだ本多静六さんたちが、さまざまな木を人為的に植林したものです。自然に木々が更新され、長い年月を掛け健全に発育していくように見えますが、実は自然の力のことも構想に入れて作られた森林であるということです。作成当時から100年後を見据えた計画であったということです。

先日、小学校でロイロノートを使った授業が行われました。この授業を見て教育環境が100年に1度と言っているくらい大きな転換期を迎えているのだと思いました。そのような環境の中で、もう一度、教育界が常識を覆して思い切り発想を変え、失敗を子ども達と重ね、教育の価値をともに創造することが必要だと考えています。今までの考え方として、図書館はこのような経営方針です、文化財はこういう経営方針ですなど、失敗をしないようにやってきたと思います。これからはその考えを変える必要があるのではないかと考えています。例えば、学校でコンピューターを買った場合に、今までは家に持ち帰ってはいけななどの決まりを作ってきました。その決まりを無くして、子どもにパソコンを渡してどんどん使わせることで、新しい発見があるのだと考えています。先生方が説明して教えるよりも、積極的に使わせる方が習得のスピードは早いと考えています。失

敗を重ねながら新たな価値を創造することへの挑戦が、教育分野だけではなく、さまざまな分野において必要であると思います。100年を構想した計画を、慌てずじっくり創っていくことが大切だと思います。今はそのスタートに来ていることを大人が強く意識しないといけないと改めて思うところです。

### 3 前回議事録の承認

8月27日定例会、9月2日臨時会

- ・修正の意見なし
- ・原案のとおり承認

### 4 教育部長報告

○市としての新型コロナウイルス感染症対策についてですが、市内で感染者は出ていますが、市に設置した新型コロナウイルス関係対応班は、給付金が一段落したため人員を減らし、健康増進課内の担当として引継ぎされます。

現在、9月議会会期中ですがこの議会では令和元年度決算の審査を行っています。また、一般質問では教育委員会関係として8人の議員から質問があり、主なものとしては、新型コロナウイルス感染症に関する学校関連の対策、放課後児童クラブの防災、新今之浦公園と文化財の関係、教育の情報化と磐田の教育などについて質問がありました。来週に委員会で決算の詳細な審議と、ながふじ学府一体校の備品取得の契約についての審査が行われ、この議会は10月13日まで開催される予定です。

### 5 議事

#### ・議案第45号 学校運営協議会委員の任命について

○磐田市学校運営協議会規則第4条第1項の規定により、豊岡南小学校の委員1名に変更がありましたので、新たな委員の承認をお願いするものです。

<質疑・意見>

なし

<議案の承認>

一同同意

審議の結果、議案第45号は原案どおり承認された。

### 6 報告事項

#### (1) 地域づくり応援課

<質疑・意見>

なし

#### (2) 幼稚園保育園課

<質疑・意見>

なし

#### (3) 教育総務課

#### <質疑・意見>

○向陽学府一体校の公募型プロポーザル受注者選定会の内容を教えてください。

○プロポーザルは、4者の応募がありました。2者が要件に満たないことから除外され、残りの2者のうち、1者が新型コロナウイルス感染症の対応のため業務が履行できないことを理由に辞退しました。結果、「地域計画建築研究所名古屋事務所」1者のプロポーザルとなりました。内容は向陽学府一体校整備の基本構想や、基本計画について、書面と口頭による説明でした。選定委員の評価が基準を満たしていましたが、その会社が請け負うことになりました。

この会社はこれまでに磐田市のながふじ学府一体校の計画にも携わり、磐田市の学府一体校構想について熟知していることもあり、プレゼンテーションの内容は安心感が持てる印象でした。

#### (4) 学校給食課

##### <質疑・意見>

○物資委員会で試食をさせていただきました。どの業者の試食品も味付けに大差なく、安全で安定した給食の提供ができる業者だと思いました。

○一食平均270円で作らなければいけないということで、食材の調達コストなどの苦勞されている話を聞きました。今年は特に野菜が高く、早く安くならないと献立が難しいということも聞きました。こういった苦勞があつて、栄養価にも気を配った、子どもたちが喜ぶ給食の提供ができていることを改めて感じました。

#### (5) 学校教育課

##### ・学力向上委員会保護者向けリーフレットの配布について

○はじめに、ICT機器活用授業づくり研修会について報告させていただきます。子どもたちが4月から借りているクロームブックは、新型コロナウイルス感染症の影響による一斉休業もあり、2ヶ月弱しか子どもたちは触ってない状況ですが、使い方に戸惑いを感じている子はいないという印象でした。小学生の子どもたちに使い方は難しくないかということを知ると、「休み時間に積極的に使っていて、難しくない」ということでした。やはり、触らせることが始めにやることなのだ実感しているところです。また、中学生に何回ぐらいで使えるようになったのかを知ると、3回でできるようになったと回答がありました。これからGIGAスクール構想で、1人1台のタブレット端末を持つこととなりますが、その進め方の一つの指針がはっきりしてきたように思いました。

学力向上委員会保護者向けリーフレットの内容ですが、概ね昨年度と同様の方針で変わりありません。昨年度と、一昨年度と全国学力状況調査の正答率の結果を載せて、3つのことを保護者向けに発信しています。1つ目に1時間は集中して家庭学習に取り組むこと、2つ目にメリハリのある生活習慣を身につけること、3つ目に親子の会話を推進することです。今年度は自分から進んで取り組む子を育てていくということで、その一つの方策として、ノート作りを載せてあります。このノート作りは、教育長からコロナ禍にあつてもしっかりと自主学習ができる取り組みをするように、各校の校長へ指示があつたものです。今後予測される、新型コロナウイルス感染症の第2波、第3波に備えノート作りを通じて自主学習ができる子どもを育てる学習を進めていることを、保護者の方にも良く知ってもらうためにも、このリーフレットを活用していきたいと考えています。

##### <質疑・意見>

○全体的的に的を射た内容だと思いますので、保護者の方には是非みてほしいと感じました。

○ノートを使った学びは勉強の中で一番大事なことだと思います。塾へ行って勉強することや、家

庭教師から勉強を教わることも必要ですが、自分で学ぶというストーリーこそが本当の実力が備わるために大切なことだと考えます。自分の学びを蓄積することができるノートの活用方法として、年が変わるときに、もう一度必要なものだけ自分で選択して書き写すこと、最近の言葉でいうと、ポートフォリオです。子どもたちに、このことを実施させていければ良いと考えています。

○先日のICTを活用した授業を参観した時に、ある先生がノートをすごく大切にしている話をされていました。ノートには自分が分からなかったことを書き、家に持ち帰って考えたりするようで、そのことを子どもたちにしてもらい、考える力をつけてほしいと話していました。

○退社した会社から毎年冊子が届きますが、その内容を自分で書き写す作業をしています。その中で必要なものと、そうでないものを自分で選り分けています。そうすることで記憶に残り整理する力が備わるものだと考えています。

○コンピューターとノートの関わりについては、100年に1度の転換期だと考えています。コンピューターへ全部情報を渡せばいろいろな問題が解決するかというところではなく、そこには人の考えが必要なきがあると考えています。ノート作りとコンピューターの活用方法については今後の重要な課題としてしっかり考えていかないといけないと思います。

○最近の子どもたちの学習を見ていると、紙で情報を得るよりも画面から情報が入ってくるように感じています。これも時代の転換期のひとつだと感じています。

## (6) 中央図書館

○図書の消毒器が先週市内の全図書館及びにこつとに導入されました。約1週間経過したわけですが、図書館をよく利用される方は既に消毒器の使い方も慣れてきている様子が見られます。しばらくは消毒器のところに職員をなるべく配置し、案内をして少しでも安心して本を読んでもらえるように周知していきます。今後も気持ちよく図書館をご利用いただけるよう事業推進をしていきたいと考えています。

<質疑・意見>

なし

## (7) 文化財課

<質疑・意見>

○9月23日に実施された「野部の地名由来と野部氏」の話をお聞かせいただきました。自分たちの住んでいる地域の由来を知る事は、ふるさとを愛することに繋がり、磐田の教育目標にも繋がることだと考えています。このような活動をそれぞれの地域の交流センターなどと連携して、地域の人たちに学びの場を積極的に提供できることが大切だと考えています。地域のコアとなる文化を大事にするような学びの場を推進していただけるとありがたいと感じました。

## 7 協議事項

・令和3年度の学校教育及び社会教育に関する一般方針等について（意見聴取）

○教育総務課では毎年、教育委員会の目標、方針、施策を取りまとめ、教育長、教育委員からのメッセージとともに、一般に周知するためにリーフレットを作成しています。教育に関する基本的な方針は地方教育行政の組織及び運営に関する法律第25条などの定めにより、教育委員会が定めるものです。令和3年度の教育委員会の目標、方針について、委員の皆様のご意見をいただきたいと考えています。教育委員会の目標ですが、平成17年度の市町村合併時に、「ふるさとを愛し、未来

をひらく、心豊かな磐田市民の育成」とし、その後、平成22年度に「育成」を取り現在の「ふるさとを愛し、未来をひらく、心豊かな磐田市民」となっています。基本方針についても平成22年度から継続しているものです。施策については、方針決定後に関係各課で具体的な内容について予算も含め今後検討していきます。令和3年度も、引き続きこの目標、方針でよろしいかご意見を願います。

○目標や方針は現在のもので良いと思います。方針1の「生きる力」という部分が大切な目標となると考えています。ここ数年特に思うのは、水害だったり新型コロナウイルス感染症であったりと、子どもたちをはじめ、我々を取り巻く環境が劇的に変化していると感じていて、それらのことに、しなやかに、強く生きる力が大事だと思います。このことは全ての世代に言えることだと考えていますので、それらの言葉を加えたら良いと思いました。

○強く生きようとする中で、折れてしまう子どももいると考えています。しなやかに、折れずに、また立ち上がれるということ子どもに伝えたこともあります。強く生きることだけが人生ではなく、しなやかに育てることも大切なことだと考えています。子どもの生きる力、子どもを支える大人、子どもも大人も学びの場という3つの表現は良い表現だと考えています。

○磐田の教育目標について、「ふるさと」、「未来」という言葉があります。これは、非常に大事だと思っています。自らのふるさとをしっかりと築くことが生きる力になるのだと思っています。司馬遼太郎の「21世紀に生きる子どもたちへ」という本があり、その中で「個の確立」が語られています。自分自身をしっかりと生きること、自分らしい生き方、「アイデンティティー」を育むことが大切と考えています。

「未来をひらく」の「ひらく」は「切り拓く」と捉えています。会社に勤めていた時に、社長から「出来ないと言わずとにかくやってみなさい」と言われたことを覚えています。私は一般の事務職でしたが、いつも自問自答しながら本当にこれでいいのかということを、毎日、頭に置きながらやるように努めました。これからの予測不可能な時代を生きる子どもたちに、何事にも果敢に挑むことや、持ちこたえる力を付けてほしいと思います。そのことは、しなやかに生きることに繋がるように思います。

「コミュニティ」の言葉の中に、「外に出て働きかける力」ということもあるそうです。私の研究テーマとして「コミュニティ」について勉強していきたいと考えています。

○目標は毎年変えるものではなく普遍的に追及していくことが大切だと考えていますので、このままでよいと思います。方針1の生きる力ですが、本当にたくましく生きるということが、今の時代なかなかできなくて、すぐに折れてしまったり、諦めてしまったりすることが多いように思いますので、このことは力を入れて取り組んで行きたい一つではないかと思っています。物事に対して臨機応変に対応できることが大事だと思います。それからいろいろなことに対して、頭の中でシミュレーションができる人になってほしいと思います。こういう事をしたらこうなるということをしっかりと組み立てられないと、例えば人を傷付けてしまうことなどをして、道徳的に悪い方向に向かってしまうのではないかと考えます。また、いろいろなシミュレーションをするためにも語彙を増やすことが大事だと思います。頭の中で考えるときは日本語で考えますので、たくさんの語彙を持って頭の中でシミュレーションをして、人を思いやる気持ちが重要なことだと思います。道徳的にもしっかりと子どもたちに育ててあげることが大事だと思います。

○方針2に「磐田市の資源を十分に活用するとともに、遊ぶ力を養うための遊びの場について検討していきます」と記載されています。これは教育委員会視察先の先進的な取り組みを表現したものです。今回も、委員の皆さんが考えていただいたキーワードを、少しずつリーフレットに取り入れ

ながら子どもたちなどへのメッセージとして、伝えることが必要だと考えています。

○子どもの生きる力には自己肯定感がとっても大事だと思います。自分があるから悪い方向へ考えを流されにくいということもあると思います。

○今までの授業は対面授業が中心でしたが、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、これからはICT授業といった学びも求められるのではないかと考えています。今後の新型コロナウイルス感染症の第2波などが押し寄せてきた場合に、自宅で学習することが予想されますが、こういうときに遠隔で行う授業が活かされます。そういう意味では、対面授業だけでなく、ICT授業に関わる施策も、もう少し前面に出していくことも必要なことだと考えています。

○方針の中に、たくましい磐田人を構成するのは、しなやかさであるなど、そのような考え方の意味を入れていく方向で内容を考えていきたいと思っています。他のキーワードとして、「ダイバーシティ」、「語彙」、「優しさ」、「思いやり」、「コミュニティ」などがありました。この辺りを事務局で精査し、新しい100年のスタートとして相応しい方針として考えていきたいと思っています。

## 8 その他

・磐田市スクールバス運行検討委員会の報告

○8月27日に磐田市スクールバス運行検討委員会の報告書が提出されました。今後、基準案を作成していくにあたり、教育委員の皆様よりこの報告についてご意見等をいただきたいと思っています。

○豊岡北小学校のスクールバスの帰りの本数について教えてください。

○帰りは上、中、下級生で時間が別れていて、それぞれ2経路運行していますので6便となります。

## 9 次回教育委員会の日程確認

・定例教育委員会

日時：令和2年10月29日（木）午後5時30分から

会場：市役所西庁舎3階 特別会議室

## 10 閉会